

2021年度 大谷大学公開講演会

共通テーマ：「出会うということ」

—豊かな宗教的情操を育む「出会い」—



大谷大学教育学部 富岡量秀

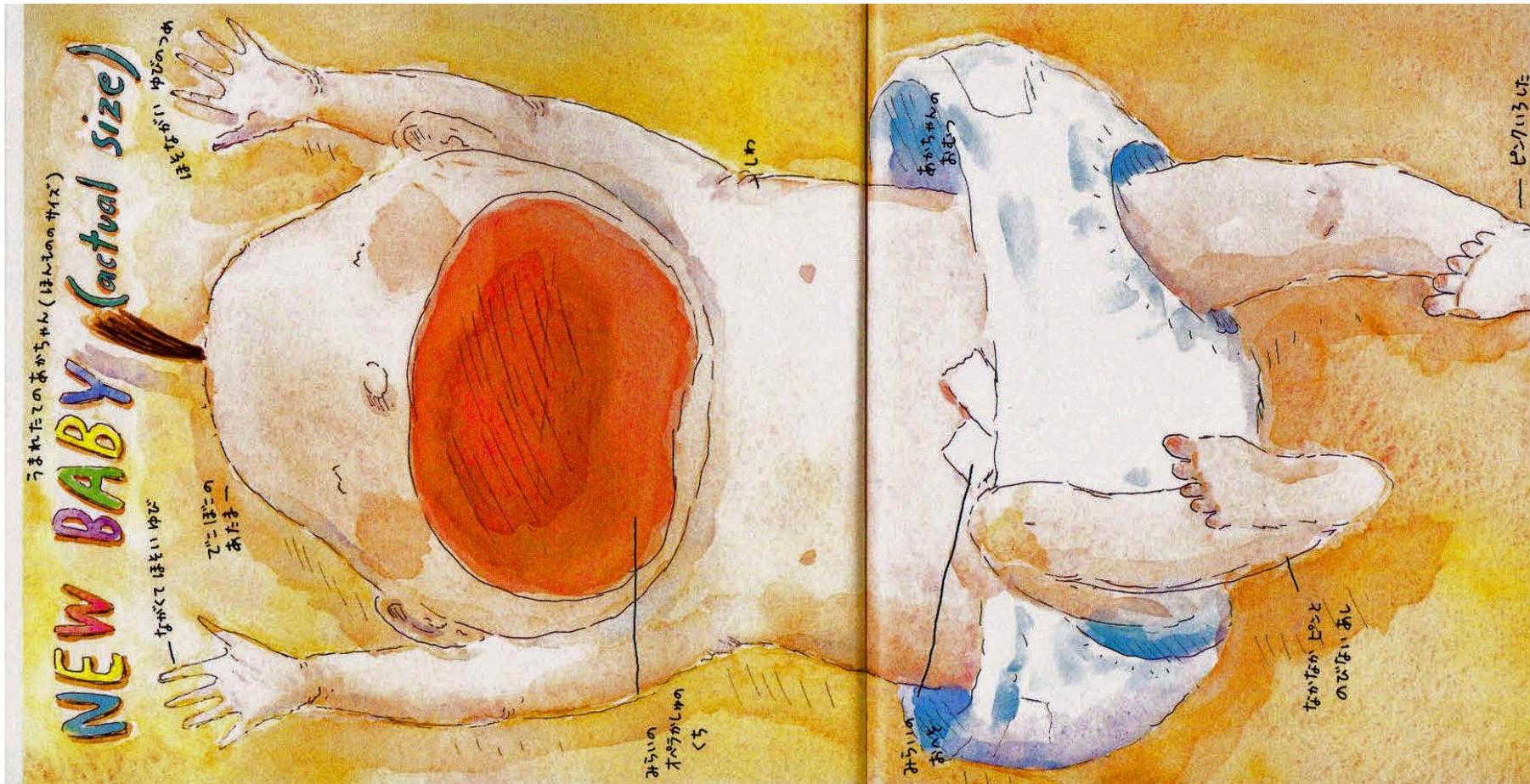
教科書の文章、理解できる？ 中高生の読解力がピンチ

教科書や新聞記事のレベルの文章を、きちんと理解できない中高生が多くいることが、国立情報学研究所の新井紀子教授らの研究グループの調査で分かった。新井教授は「基礎的な読解力がないまま大人になれば、運転免許や仕事のための資格を取ることも難しくなる」と指摘している。

わたしたちは、生活を豊かにし、便利にしてきました・・・
ほんとうに多くの「ことば」を失って来ました・・・
そして「大切なこと」を考えること・出会うこと
が難しくなった・・・のかもしれない

かけがえのない、大切な 一人ひとりの誕生・・・

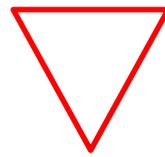
すごいね！
不思議だね！



ジェイミー・リー・カーティス/作 ローラ・コーネル/絵 坂上香/訳
『ねえねえ もういちどききたいな わたしがうまれたよること』
2004年4月 4刷 偕成社

子育てにどんな不安があるのでしょうか？

子育て ⇒ 不安



どうやって
しつけやマナー
を身につけさせ
ればいいのか？

健康や発達の
ことが心配

不安を
考える
キーワード

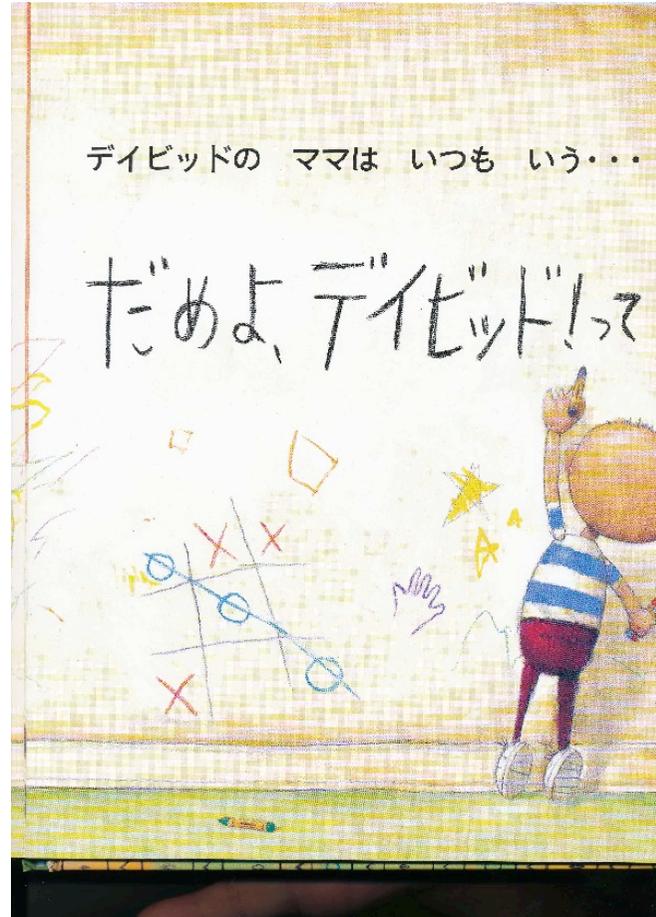
勉強や進学
は大丈夫なの
かしら？

ちゃんと
大きくなるまで
育てられる？

子どもの
性格や癖は
大丈夫かしら？

子どもたちは
生活の中で、
いろんな事を
しちゃいます

わたしたち
大人が・・・
いつも言う
ことは・・・



だめよ！！

ちゃんと
できる時も
あれば・・・
できない時も
あるんです

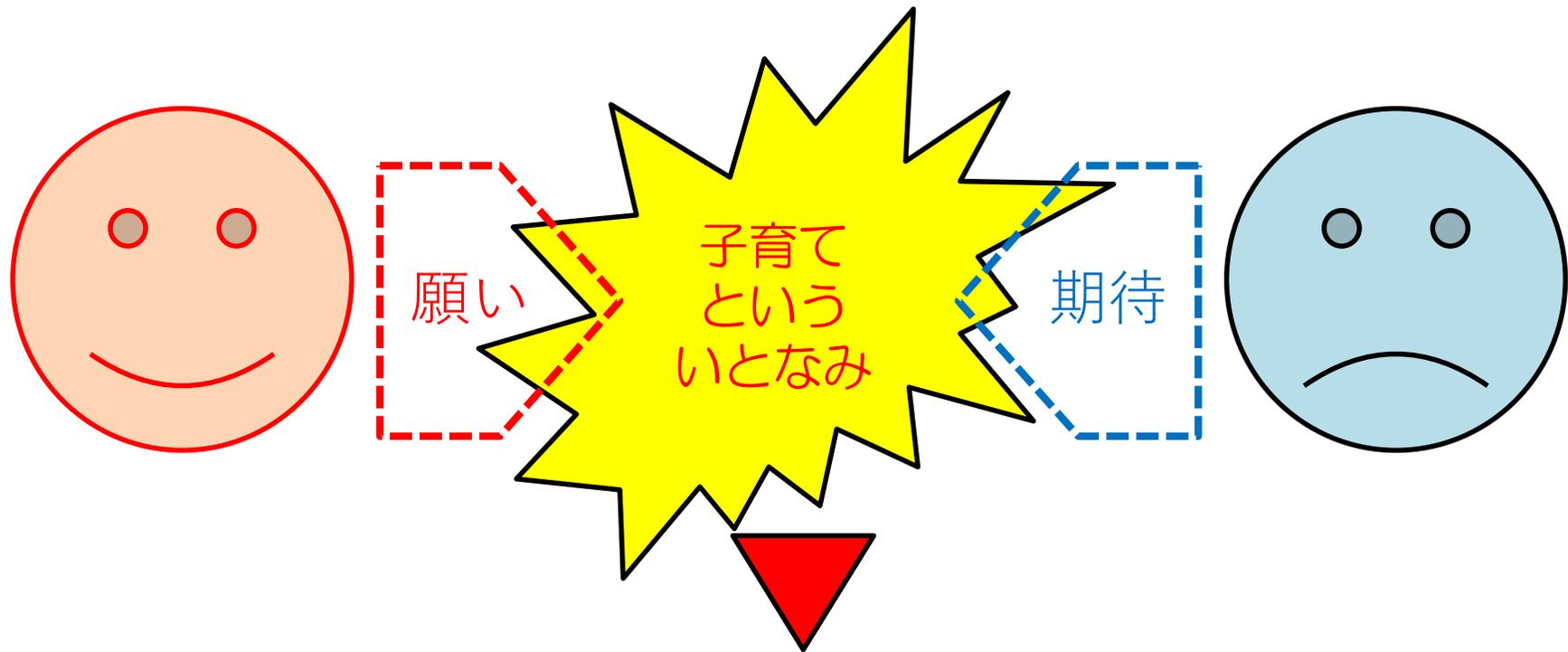
デイビット・シャノン さく／小川仁央 やく
『だめよ、デイビット!』
2009年5月20日19刷発行 評論社

わたしたちが決して忘れてはならないことは・・・

今の子どもたちの姿を捉え、課題を考える時、
子どもたちは、おとなたちの世界の中に生まれ、
育ち、様々なことを学び、身につけ、
「現在があるのだ」ということです。



子どもの育ちをとおして・・・



願いと期待？どちらが・・・

子どもをとおして「見直し・考える」営み・・・それが子育て
その意味で、おとなたちの育ちなおしの場である

教育（幼児教育・保育）とは・・・

保育とは、今を生きる子どもたちに未来を送り届ける工夫である。

子どもの現在に、未来に生きるものを組み込むための デザイン である。

子どもの現在を充実させることが、未来への財産になるような経験のあり方を考えることなのである。

無藤隆先生の指摘をもとに

—真宗に立った教育とか保育はプロセスをデザインする基盤—

今回一緒に考えたい視点⇒プロセスをデザインする

プロセスで考える

自立するのではない。自立的になっていく。

自発的なのではない。自発的になっていく。

主体的なのではない。主体的になっていく。

遊ぶのではない。遊びらしくなっていく。

思考するのではない。思考するようになっていく。

挑戦するのではない。挑戦するようになっていく。

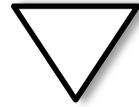
好きなのではない。好きになっていく。

分かるのではない。分かるようになっていく。

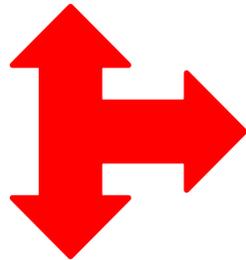
学ぶのではない。学ぶようになっていく。

すべてはプロセスである。最初の芽生えがあり、それは、環境との出会いを通して深まり、豊かなものとなり、その豊かさによって、本来の姿が形をなす。その経過を助ける作業が子育てである。

どのような現実とであっていくのでしょうか？
われわれの現実は『大無量寿経』において・・・



- 子はその父を欺く。兄弟・夫婦・中外知識、かわるがわる相欺誑す。おのおの貪欲・瞋恚・愚癡を懐きて**自ら己を厚くせんと欲えり**。（『真宗聖典』 p.68）
- 父母教誨して、目を瞋らし麿を怒らして言令和かならずして、違戾反逆す。**たとえば怨家のごとき、子なきには如かず**。（『真宗聖典』 p.73）

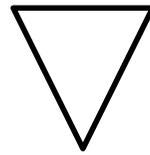


とても重要な関係があります！

対して仏は・・・

我、汝等諸天人民を哀愍すること**父母の子を念うよりも甚だし**。（『真宗聖典』 p.78）

真宗からの 「養育」への願い・・・



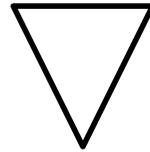
仏と私たち（衆生）との関係

⇒ 仏が私たち一人ひとりを「わがひとりご」と
思う関係である。

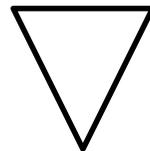
私たち（衆生）の関係

⇒ 私とあなた・・・そしてあらゆる人々、大人も
子ども 「四海の内皆兄弟」と成る関係。

仏と私たちの関係・・・



ほんとうの親子関係



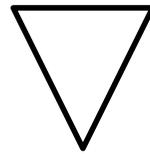
仏の方から、よびかけられている
親子関係

私たち一人ひとりの存在の意味

あらためて…

真宗の「養育」観

真宗とは養育そのものである



『教行信証』の「行巻」（一乗海嘆釈）

「悲願は（本願のこと）」と語る中で・・・

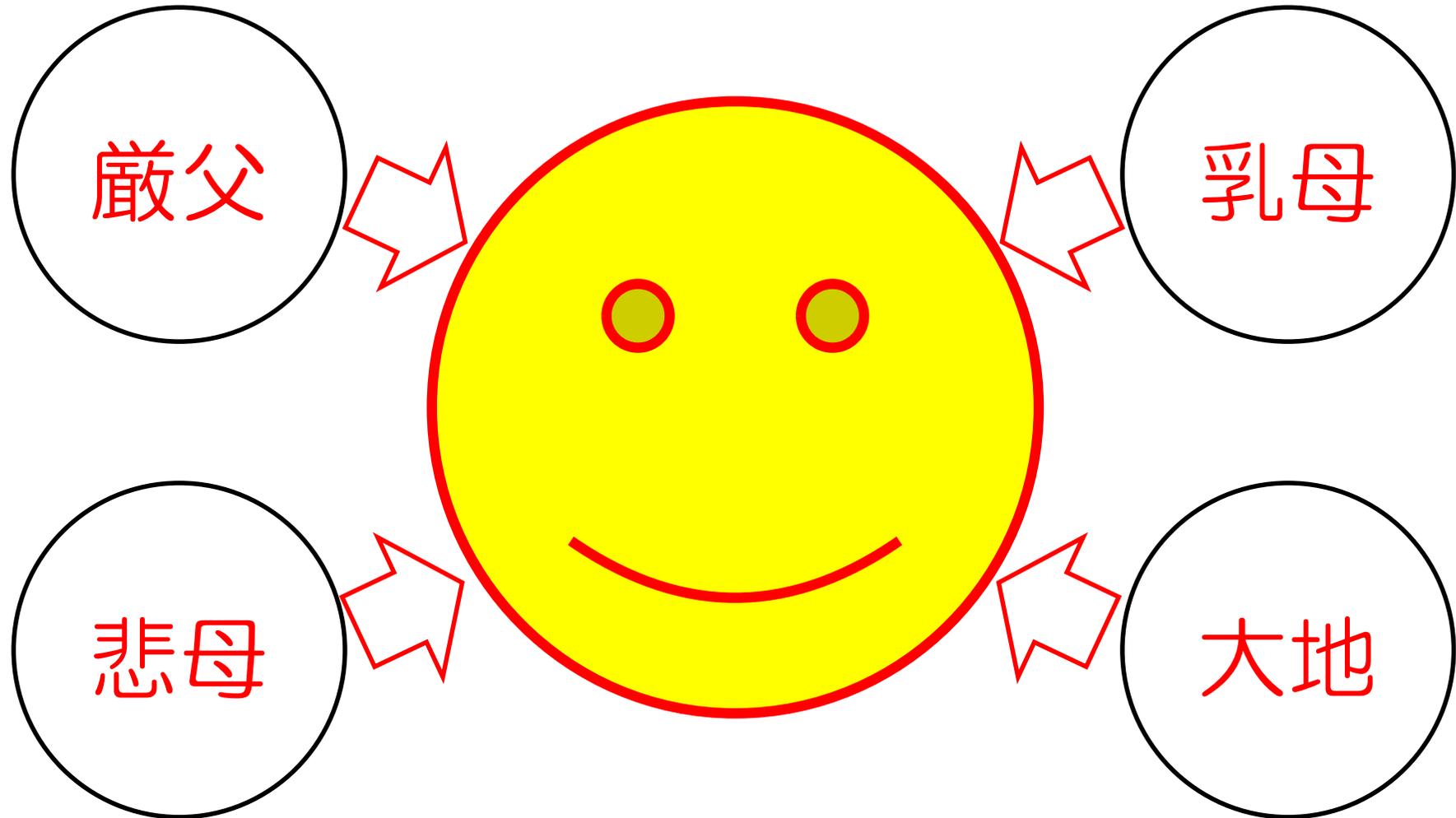
なお**嚴父**のごとし、一切もろもろの凡聖を**訓導する**がゆえに。

なお**悲母**のごとし、一切凡聖の報土眞実の因を**長生する**がゆえに。

なお**乳母**のごとし、一切善悪の往生人を**養育し守護**したまうがゆえに。

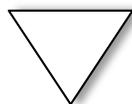
なお**大地**のごとし、よく一切の往生を**持つ**がゆえに。

真宗の“場”は、子どもも大人も
あらゆる関係存在 一人ひとりを



何に「出会う」のでしょうか？
〈真実〉に、そして〈自分自身〉に・・・

「出遇って」ほしい！

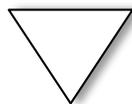


そこには・・・

「いずれ仏になるべき人」に「成って」ほしい

そのような「願い」をかけられていることを

〈知〉ってほしい

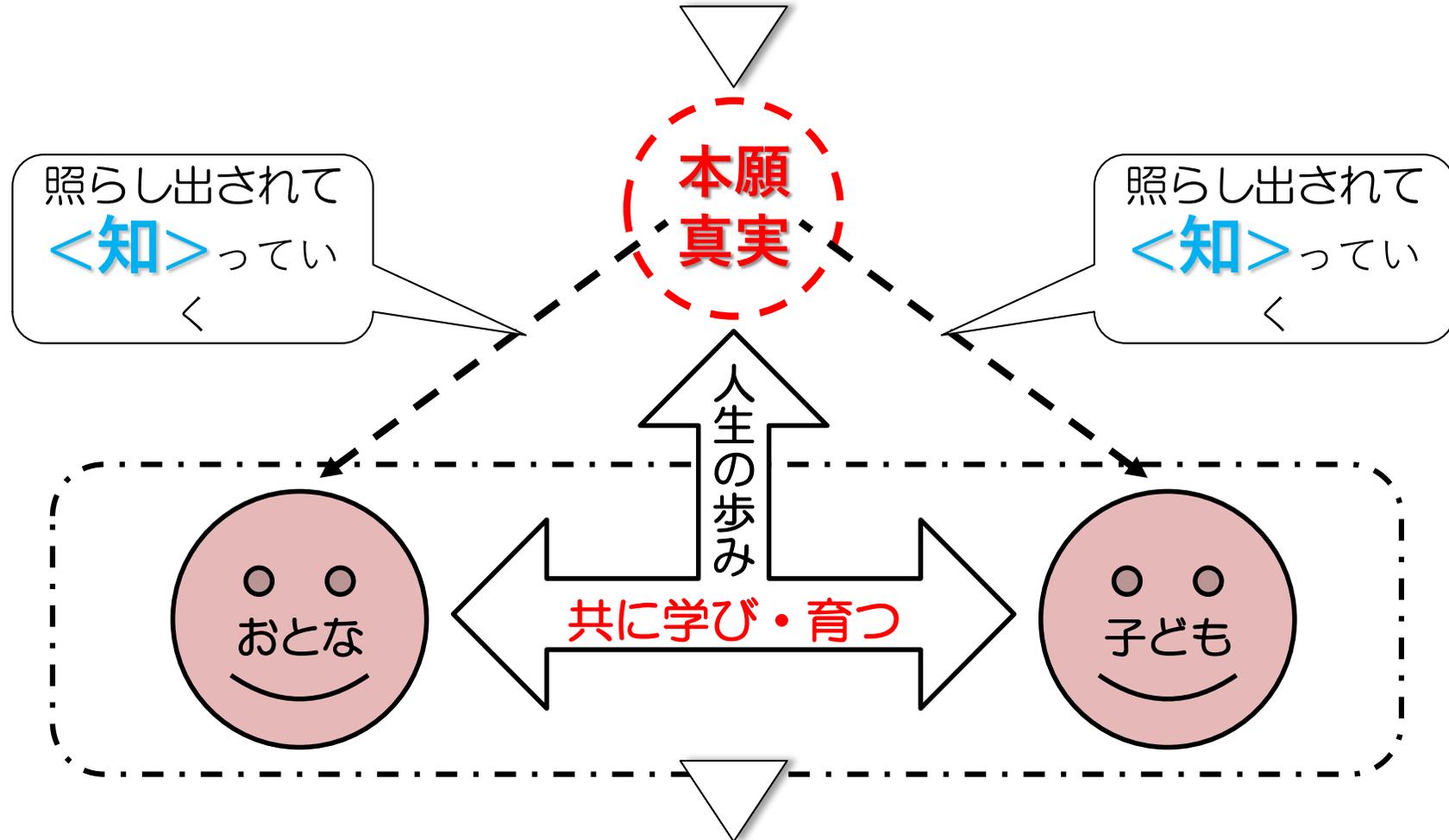


しかし大問題がある！

そのことが尊いことだとうなずけない・・・

「出遇えない」！という課題があるのです

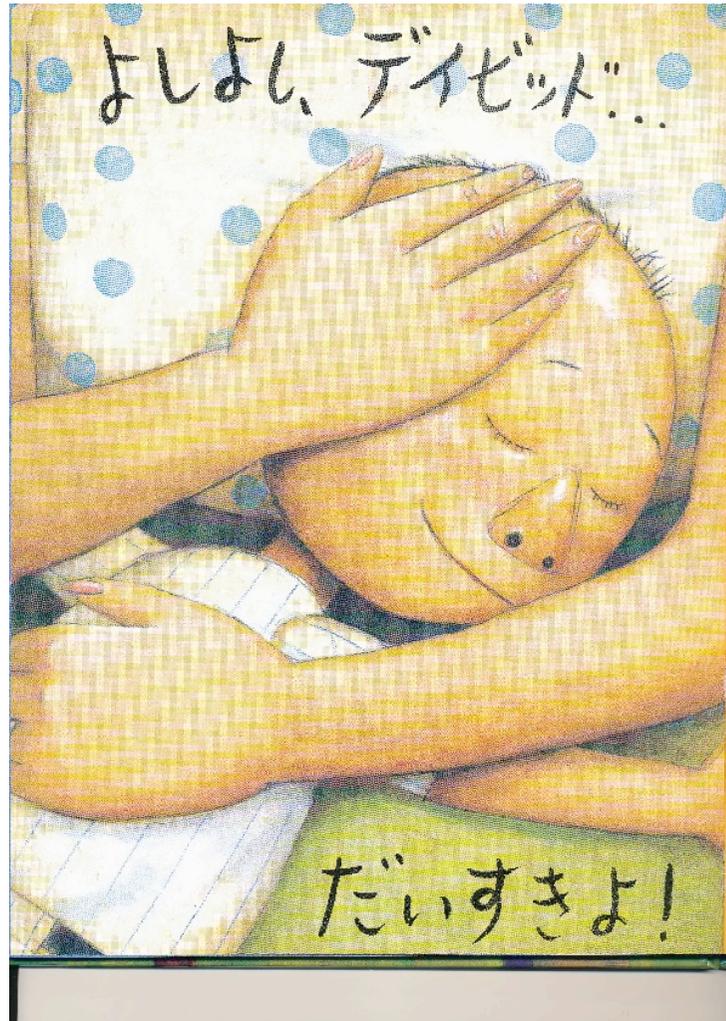
この「**願い**」⇒教えに「**出会う**」とき・・・



この関係を親鸞聖人は大切にされたのだと思います。

「『安楽集』に云わく、真言を採り集めて、往益を助修せしむ。何となれば、**前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え**、連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。**無辺の生死海を尽くさん**がためのゆえなり、と。」

親鸞聖人：主著『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）の結び（『真宗聖典』p.401¹⁶）



デイビット・シャノン さく
小川仁央 やく
『だめよ、デイビット！』
2009年5月20日19刷発行 評論社

「願い」を聞きあてた、子どもたちが
精一杯生き切ったと感ずること・・・
その実感を感じられること・・・